



国労東京支部

2021年4月22日

第4号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 野佐根 浩巳

編集責任者 佐藤 賢一

一つひとつの取り組みの 総括運動を大切にしよう

2月下旬から東京支社管内の各職場で、職場過半数代表者選挙が始まった。残念ながらJR職場では国労組合員が代表になることはできなかった。会社側は選挙活動に対する介入、妨害ともとれる行為をしてきたが、それでもなおかつ組合員数を上回る票を獲得するなど、国労の存在感を示した職場もあった。

JR職場で共通しているのは、今回からチラシを作成しての選挙活動は認めないということ。組合員が、「なぜダメなんですか」と聞いても現場長は、「支社の指導です」の一点張りで、それ以上は答えない。また、職場によっては業務掲示板に貼るチラシをチェックして赤線を引き、「この部分は訂正しないと業務掲示板には貼れない」と、選挙活動のチラシにまで介入してきた。

このような会社側の介入に対し、チラシがダメなら分会ニュースだ、とニュースを作成して休憩時間に仲間へ配布する、という取り組みをした分会もあった。

選挙戦の総括として、「組合員以上の票を獲得したとの総括が多いが、大切なことは、職場の問題点を若い仲間と話し合い、共有できたこと、あるいは代表者選挙が分会全体の取り組みとなっているか」など、運動の一環としてとらえる総括が大切ではないか、ということである。

もちろん過半数代表者になることが最大の目的であるが、職場の仲間と話しをして、職場の問題点を広げ、改善する取り組み、一人で闘うのではなく、仲間と共に選挙戦を闘う、といった方針が重要だ。

また、選挙チラシの「赤線チェック」などについては今後、労基署への相談などを含め、会社側の行為を摘発していく準備も必要だ。課題は残ったが、職場代表者選挙を通して運動の前進、国労の姿をより明確にし、組織拡大につなげていきたい。

2021年 職場過半数代表者選挙を終えて 柏駅南口改札 Mさん

2月19日、立候補届を提出。2020年コロナ禍入社中の仲間の激励、36協定に関するピラをつくり、松戸駅務管区で働く仲間・OBとともに南千住・亀有・北松戸・馬橋・南流山・北小金・南柏・柏南口・北柏・我孫子遺失・天王台各駅の社員（管理者含む）に配布し、一人のもしもないように丁寧にお願ひに回りました。その際、職場での気がかりな点、また早急に改善しなければならない問題を仲間から受け、管区長に国労として申し入れすることもあり、組合の必要性もアピールしながらの選挙活動となりました。

昨年は国労の立候補者のみでしたので、信任投票となり、過半数票を獲得し職場代表となりましたが、今年度は、東京駅で頑張ってきたプロパー社員が立候補しました。少し気をもんだ場面もありましたが、この一年間、安全衛生委員会で職場の意見を聞き、プロパー社員の意見も引き出しながら会社に申し入れ、会社があやふやな回答をしたときは確認し、プロパー社員が少しでも発言しやすい雰囲気をつくってきました。そういうところも支持されたと感じていますし、国労の仲間が多くいるのも心強いです。

今後も、誰もが意見を言えるような雰囲気をつくり、若い子が中心の委員会を目指します。

会社側も委員会の最後には時間を設け、職場の問題点・気になっていることを話しあう場を設けてくれます。リラックスしてストレスを発散する意見も出されたり、本音のトークでよい雰囲気です。1時間ほどありますが、若手とロートルが打ちとける場となっています。

今後も松戸駅管区内のよい環境をつくるため、努力していきたいと思ひます。